



公民館からのお知らせ 問い合わせ：教育推進課 ☎54-3637

☆公民館主催講座

■陶芸講座

【受講資格】 村内在住・在勤、村で活動する団体の方、公民館クラブ員の方

【回数】 年6回（すべて日曜日）

【日時】 ・初回：9時～10時30分 6月7日
 ・2回目以降：9時～11時30分
 6月21日、7月5日、7月19日、
 8月30日、9月13日

【講師】 脇田 宗孝 先生

【場所】 ・初回：中央公民館
 ・2回目以降：講師の工房

【教材費】 5,000円程度
 ※金額は多少前後する可能性があります。

【定員】 15名 ※先着順

■手話講座

喜怒哀楽表現を中心に、村のおもてなしに役立つ手話を学べます。

受講生の皆さまが手話でコミュニケーションをとれることを目標に進行します。

【受講資格】 村内在住の方、村で活動する中高生以上の方

【時間】 13時～14時頃

【日程】 基本として第3土曜日
 （月一回程度・変更の可能性あり）
 5月16日、6月20日、7月18日、8月15日、9月未定、10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月未定、3月20日

【講師】 上村 文洋 先生

【場所】 中央公民館

【費用】 無料

【定員】 15名 ※先着順

■英会話講座

やさしい日常会話から言語や文化に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を身につけ、英語の楽しさを体感しませんか？

【受講資格】 村内在住・在勤、村で活動する団体の方、公民館クラブ員の方

【対象】 ・初級：英会話未経験者
 ・中級：経験者

【回数】 各級、年間14回程度
 （水曜日の14時～15時30分予定）
 （下記日程には予備日を設けています）

【実施日】 5月20日、6月3日、6月17日、7月1日、9月2日、9月16日、10月21日、11月25日、12月2日、12月16日、1月20日、2月3日、2月17日、3月3日

【実施日】 5月27日、6月10日、6月24日、7月8日、9月9日、9月30日、10月28日、11月4日、11月18日、12月9日、12月23日、1月27日、2月10日、2月24日、3月10日

※講師の都合により、日程が変更になる場合があります。

【講師】 パquette・ルーク・アンドレ 先生

【場所】 中央公民館2階 研修室1

【費用】 無料

【定員】 各級14名 ※先着順

■申し込み

4月24日(金)までに下記公民館主催講座申込書に必要事項をご記入いただき、公民館窓口へ持参してください。

■問い合わせ

明日香村教育委員会事務局 教育推進課
 (明日香村大字橋21)

☎54-3637

公民館だより

公民館主催講座申込書

申込講座名	陶芸講座・手話講座・英会話講座（初級）・英会話講座（中級） ※希望講座に○をお付けください。
住所	〒
電話番号	
ふりがな氏名	

2026(令和8)年度 第52回 飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾—

☆第1講

【日時】 4月12日(日) 13時~15時
 【場所】 中央公民館1階 ホール
 (〒634-0141 明日香村川原91-1)
 【講師】 関西大学文学部教授 井上 主税

【内容】 韓国の世界遺産と「飛鳥・藤原の宮都」
 ※村内在住の方、関西大学学生、本講座に興味のある中高生は受講料無料です。
 【問い合わせ】 関西大学教育後援会
 ☎06-6368-0055

	開講日	所属	講師(敬称略)	演題	場所
第2講	5月10日(日)	関西大学文学部教授	乾 善彦	古代人の「ふるさと」飛鳥	中央公民館
特別講		関西大学前非常勤講師	今尾 文昭	天武・持統陵の近世、その在地化	
第3講	6月14日(日)	作家 関西大学客員教授	玉岡 かおる	宮都が語る文明のかたち —飛鳥・藤原京と世界遺産登録の意味—	
第4講	7月12日(日)	明日香村長 関西大学客員教授	森川 裕一	飛鳥の謎を解き明かす —世界遺産構成資産候補をながめて—	
第5講	8月30日(日)	特別講演開催予定			
第6講	9月13日(日)	関西大学文学部教授	森部 豊	隋唐長安城の都市プラン —古代日本の都城との比較—	
第7講	10月11日(日)	関西大学文学部教授	長谷 洋一	飛鳥・白鳳の仏像 —飛鳥大仏から薬師寺薬師三尊像へ—	
特別講	11月 8日(日)	関西大学文学部教授	村元 健一	藤原宮・京造営と東アジア —都城・宮城はなぜつくられるのか—	
第8講		関西大学名誉教授	西本 昌弘	多武峰の両槻宮について	
第9講	12月13日(日)	関西大学客員教授	徳田 誠志	「百舌鳥・古市」から「飛鳥・藤原」へ —「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録と課題—	
第10講	1月17日(日)	関西大学文学部長	村田 右富実	飛鳥の三山、藤原宮の三山 —『万葉集』と大和三山—	
第11講	2月14日(日)	天王寺楽所雅楽会理事長 (一社)雅楽協会代表理事 関西大学客員教授	小野 真龍	日本伝統芸能の祖としての聖徳太子 —太子から流れ出た諸芸能—	
第12講	3月 7日(日)	関西大学文学部教授	黒田 一充	民俗芸能の鬼	

公民館だより

公民館クラブと村民の皆さまの短歌

☆短歌

- 餅菓のしめ縄つくり香りたち二人向き合う力をこめて
 - 寂しきは「今年で終わる」年賀状令和は続くわれより永く
 - 塔頭に枯山水の大徳寺利休のこころ砂を渡れり
 - 正月の帰省楽しよ三家族積まれし布団は思い出の宝庫
 - 初春に小豆粥食ふ妙心寺生飯施して恵みを分かち
 - 霧の朝凍てつく空に寒そうに弓張り月が日の出を待てる
 - 貰い風呂炭火の炬燵なつかしき初任の村の思い出数多
 - 初春に自信あるはずカルタ取り吾は三枚、孫二十枚
 - 断捨離で衣服を選びしみじみと思いを寄せるも割り切り捨てた
 - 冬の朝羽化の途中で息たえた蝶を葬るいのち思いて
 - 「ふさ手折り」と人麻呂詠みし細川の瀬の音を聞く冬日あびつつ
 - 振り返る暇もなく去年今年サント・シヤペルの神の光見き
 - 初春の明日香村内かめバスで乗り継ぎ廻るは吾の事始め
 - 金剛山が建武の昔を語りをり隣る葛城山をりにうなづく
 - 老杉は葉を寒む風に散らすかな身に余るもの脱ぎゆくやうに
 - 金柑のたわわに実る如月に小鳥舞ひ来てつひばにけり
 - 如月の立春の候雪ふりぬ屋根庭木等積もり銀せかい
 - 老いの足合格祈願に一万歩絵馬を奉納久延彦の神へ
 - 道の辺の木瓜に深紅の花ひとつスマホに収め君は見ている
 - 健康は体温め食命和合第一あすかに生きぬ
 - 豪雪の地域の人ら毎日を白い悪摩と戦うつらさ
 - 春の野辺世界遺産に登録ののらりくらりと檜隈寺跡
- 山本 能世
辰巳 陽子
森本 博文
奥 まさみ
協田 智子
吉田 清子
森田 幸子
米田 靖子
米田 郁夫
田中 祥子
藤川 幹代
友田 昌子
森本 千鶴子
山本 修
上中 幾代
脇本 雅子
森本 武志
豊田 絹代
尾関 常子
井本 智子
勝川 京子
松本 義夫